

[平成15年度普及に移しうる技術]

[普及に移す技術名] ダイズ害虫フタスジヒメハムシの防除時期

[要約] ダイズ害虫フタスジヒメハムシ成虫の子実への被害に対する防除適期は8月中旬と8月下旬である。

[キーワード] ダイズ、フタスジヒメハムシ、防除適期

[担当] 農業試験場・生産環境部・昆虫研究グループ

[連絡先] 電話 0776-54-5100、電子メール y-kitajima-fi@ain.pref.fukui.jp

[分類] 参考

---

[背景・ねらい]

近年、ダイズを加害するフタスジヒメハムシの発生量が増加し、莢や子実の被害が問題となっている。これまでの試験結果から本虫に対してはイソキサチオン粉剤が卓効を示すことがわかっているが、本剤は生育期間中の使用回数が2回以内に制限されている。そこで、着莢期以降におけるイソキサチオン粉剤による防除適期を検討する。

[技術の内容・特徴]

1. 2001年、2002年の払い落としシートによるフタスジヒメハムシの生息成虫数の調査から、第2世代成虫の発生最盛期が子実肥大初期にあたる8月下旬であることが分かった(図1)。
2. イソキサチオン粉剤を用いて散布時期を変えて防除試験を行った結果、被害莢調査から8月中旬散布が最も防除効果が高いことが分かった。9月下旬散布の防除効果が高いが、落葉期で莢への被害が集中するためと考えられる(図2)。
3. 黒斑粒の発生は8月下旬散布が最も防除効果が高いことが分かった。フタスジヒメハムシの関与が強い腐敗粒の発生は8月中旬、下旬が高く、9月以降の防除効果は低下した。莢に対する防除効果が高い9月下旬散布は、子実への防除効果は低く、莢に対して遅い時期に加害されても黒斑粒や腐敗粒の発生には至らないためと思われる(図3)。
4. 以上のことから、第2世代成虫の増殖期にあたる8月中旬～下旬が防除適期であり、多発時にはこの時期に防除を行うことが必要である。

[技術の活用面・留意点]

1. 本試験にはイソキサチオン粉剤を供試した。
2. 第2世代成虫最盛期は、8月下旬であるが年次によって1半旬程度のズレがある恐れがあるので、留意する。
3. 発生予察情報に留意する。

[ 具体的データ ]

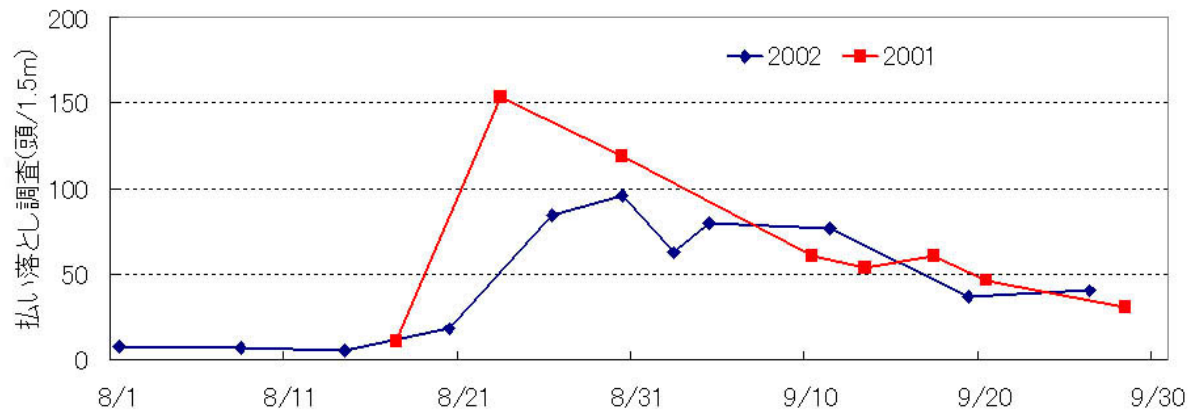


図 1 . フタスジヒメハムシの生息密度



図 2 . 防除時期と被害率の関係

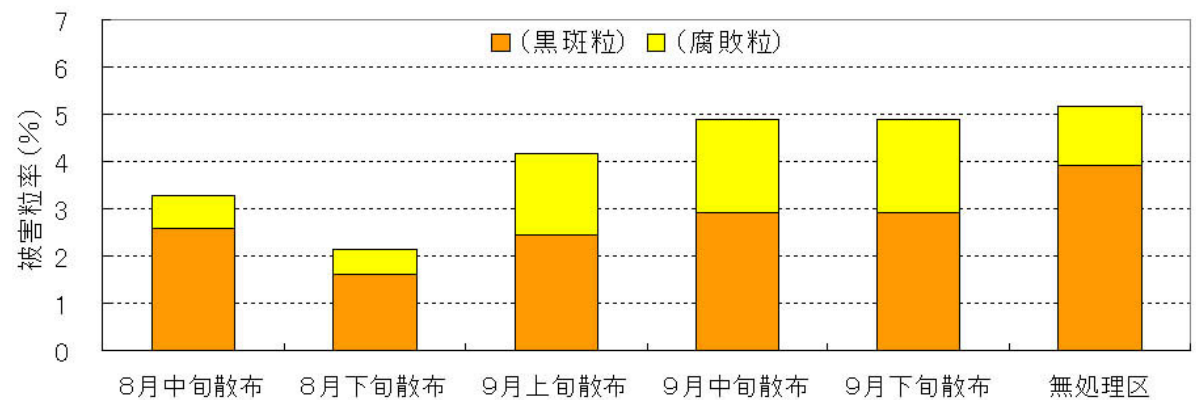


図 3 . 防除時期と被害粒率の関係

[ その他 ]

発表論文等：第55回北陸病害虫研究会講演要旨（2003.2/20～21）